



総務省

Ministry of Internal Affairs  
and Communications

## 地域人材ネット

かのさと体験観光協会を通じたグリーンツーリズムの企画受け  
入れ

仲田 芳人 ( なかだ よしと )

かのさと体験観光協会 事務局長



### ○ 登録者情報

所在地

岡山県新見市

## 略歴

1976年 駒澤大学歴史学科卒業、家業の旬刊ローカル紙「備北新聞社」を継ぐ。  
1987年 民間のまちづくり集団・新見ふるさと塾21設立に参画(事務局長、塾長、現在、務局長)  
1993年 地域づくりのプラットフォーム・ネットワークあしん設立(国道180沿いに桜の植樹、岡山県広域連携事業調査、阿新の音選定コーディネーター等)  
2001年 2・13「にこにこの日」イベント企画実施(2012年まで毎年)  
2002年 グリーンツーリズムの企画受入団体かのさと体験観光協会設立(事務局長)  
2005年 かのさと体験観光協会 岡山県夢づくり推進大賞受賞(県知事表彰)  
2006年 全国都市再生モデル調査コーディネーター(古民家を活用したまちづくりサテライトキャンパス社会実験)  
2010年 岡山県中山間地域協働支援センター運営に参画(まちづくり推進機構岡山他3NPO法人で運営受託)  
2011年 国交省「都市農林漁村連携交流推進調査」先進事例調査受ける(かのさと体験観光協会)  
2013年 新見漁協と提携し「釣りガールを目指す女性のためのアユ釣り講座」始める。NPO法人みんなの集落研究所評議員。韓国の研究者の視察受け入れ(GT、移住や帰農等について)。  
2014年 IIHOE(人と組織と地球のための国際研究所)の「社会事業家100人インタビュー」を受ける。  
2015年 美作市の一般社団法人上山集衆代表理事西口和雄氏と参加者双方向型キーワードセッション「消えてたまるか中山間」を岡山市で開催。  
2016年 岡山市でかのさと新見「夢あがり日曜市」を定期開催、新見市哲多町矢戸で高級ジャガイモ「インカのめざめ」栽培開始  
2017年 にこにこライスカレー協会設立ダムカレーの取り組み開始 新見市クアオルト健康ウォーキングの取り組み支援 インカのめざめを「萬歳じゃが」のブランド名で岡山のスーパー、医療機関に全量販売  
NPO法人まちづくり推進機構岡山理事、岡山県地域づくりマイスター(岡山県)、アグリ人材バンク(まちむら交流きこう)、地域づくりコーディネーター(地域活性化センター)、都市再生本部キーパーソン登録(都市再生本部)、新見ふるさと塾21渉外担当  
2018年 ダム工学会のシンポジウムでにこにこダムカレーの取り組み発表 かのさと体験観光協会で韓国江原道麟蹄郡職員の視察受け入れ  
2019年 倉敷商業高校とかのさと体験観光協会コラボで「かのさとの魅力いっぱい高校生ガールズツアー」を企画、受け入れ。滞在型修学旅行プラン作成のためのモニターツアーを催行  
新見市人口減少問題対策会議委員、新見市クアオルト推進協議会企画実行部会長

## 著書・論文等

1993年「東寺とその庄園」(東寺宝物館)『東寺領荘園サミット～共に輝くまち』『砂鉄への思い』『祐清に子孫?』  
2002年「ガバナンス」NO15(第一法規出版)『県境を越えた過疎山村の連携～10年目を迎えた「県境サミット」』  
2007年「都市住宅学」60号(都市住宅学会)『古民家を生かした「よりどころ」～御殿町サテライトキャンパス社会実験』  
2011～12年備北新聞の主な社説テーマ「中山間地域振興」「グリーンツーリズム」「協働のまちづくり」「集落支援」「地域福祉」「防災とコミュニティ」「東日本大震災・つながるチカラなど5回シリーズ」等  
2013年 日本政策金融公庫の「AFCフォーラム」に「グリーンツーリズムで出会い体験 農山村かのさとのファン増やす狙い」を寄稿  
中国電力エネルギー総合研究所発行の情報誌「碧い風」特集で、かのさとの「備中白小豆復活栽培と新銘菓・松寿誕生」紹介を受ける  
2013～18年の備北新聞の主な社説テーマは「人口減対策」「コミュニティづくり」「交流人口の誘導」「地域福祉」「協働のまちづくり」等  
2015年 IIHOE刊「ソシオ・マネージメント」第2号に社会事業家100人インタビュー内容掲載  
2019年 備北新聞社説で「新総合振興計画の視点」を20回連載

他省略

## ○ かのさと体験観光協会を通じたグリーンツーリズムの企画受け入れ

### 取組の内容

中四国で初めて民間のグリーンツーリズム企画受け入れ団体として設立しました。地域の自然、農林業、生活文化などの地域資源を生かした体験プログラムを企画し、地域住民との交流を織り込みながら、主に都市住民を受け入れています。

体験プログラムは「山の精をいただく木の芽の会」「夜川体験」「ばあちゃんの知恵のお裾分け・白菜漬&キムチづくり」「白菜の株主制度」など四季折々に及び、さらに棚田の保全活動、幻の備中白小豆の復活栽培により和洋菓子店と連携した和菓子の商品化、県など行政との協働事業や他団体との連携事業、かのさとファンクラブ、農家民泊「いろり亭」との連携などの幅広い活動を展開しています。



山菜の調理法の説明を聞く参加者



コシアブラを採る参加者

## 実績

年間15～20の体験プログラムを企画し、岡山市や倉敷市を中心に年間約200～600人の参加者を受け入れています。

なお、現場には60人の体験指導者(インストラクター)があり、多様な資源と多彩な指導者のネットワークによりオーダーメイド型の体験プログラムづくりを可能にしていることから、毎年、行政や団体からプログラムづくりのオーダーを受けています。

また、中四国初のGT企画団体として視察(2011年度5団体)や出前講座も年々増加しています。さらに、10周年の2011年度からGT初の「ポイント制度」を創設しました。グリーンツーリズムを目指す地域等の視察の中には韓国の研究者や自治体職員を受け入れ、他団体とのコラボでは新見漁協、新見ロータリークラブ、岡山県備中県民局環境課、県南の中学校等との連携プログラムからは、「高梁川源流域探検ツアー」や「釣りガールを目指す女性のためのアユ釣り講座」という人気プログラムも生まれている。更には、イタリアンの寺田真紀夫シェフ(岡山市)と連携した新しい農作物づくりを新見市哲多地区等で始めるなど、「都市と繋がった顔の見える農業」の取り組みをスタートさせた。

## 工夫した点や苦勞した点

グリーンツーリズムは、いくら良い企画が出来ても、都市住民等に情報として届かなければ意味がありません。

設立当初からPRに苦心しながら、参加の人々を大切にもてなし、DM登録しプログラム企画情報を年間3～4回DMで届けています。登録者は450人に及び、60%強のリピーター率があります。もてなしは誠心誠意で真心を尽くすことです。

## ひとことPR

特徴は4つ。第一は体験プログラムのネーミングのユニークさ、第二は行政の補助金に頼らない自立した組織運営をしていること、第三はミッション達成型(ネットワーク型)を活動を行っていること、そして、第四に様々な団体とのコラボ企画の多彩さです。



白菜を樽に漬ける参加者



夜川を体験する子どもたち





とうふづくりを指導する坂田さん



そうめん流しを楽しむ子どもたち

## ○ 参考

### 取組の分類

地域人材ネットでは、登録者の取組を11の政策分野に分類しています(複数の分野に該当するものもあります)。

	1	地域経営改革		7	まちなか再生
	2	地場産品発掘・ブランド化		8	若者自立支援
	3	少子化対策		9	安心・安全なまちづくり
	4	企業立地促進		10	環境保全
	5	定住促進		11	その他
○	6	観光振興・交流			

### 関連ホームページ

かのさと体験観光協会	<a href="http://kanosato.iinaa.net/">http://kanosato.iinaa.net/</a>
晴れの国づくりネット地域づくりマイスター	<a href="http://www.okayama-inaka.jp/harenokuni/mystar/data.php?c=m&amp;n=284">http://www.okayama-inaka.jp/harenokuni/mystar/data.php?c=m&amp;n=284</a>

### 連絡先

メールアドレス	bihoku.np.nakada〔アットマーク〕dream.ocn.ne.jp	その他	090-7509-5149
---------	---	-----	---------------

※メールを送る際には〔アットマーク〕を『@』に変えてください。